



令和7年1月14日（火）14:30～16:40 郡山市役所 正庁

【実践発表】 並木幼稚園

遊びや生活を通して育まれる資質・能力について～学びの連続性を見通したアプローチカリキュラムの実践～
就学に向けた幼保と小の情報共有について



《実践3 郵便屋さんごっこ》
《ごっこ遊びの様子》

健康な心と体
協同性
社会生活との関わり
言葉による伝え合い
豊かな感性と表現

○敬老の日にハガキを書いて出し
に行きおじいちゃんおばあちゃんが
喜んでくれた

「お友達にもお手紙を書いてみたい！」
子どもたちの言葉から郵便屋さんごっこ
が始まる

【ねらい】
・文字に興味関心を持ち、他児との
交流を楽しむ
・郵便屋さんごっこで言葉と想像力
を膨らませる



《小学校交流会》

【ねらい】
小学生の授業
に参加して学校の
雰囲気を知る

○就学に向けた幼保と小の情報共有について



並木幼稚園の教育目標は「子ども第一主義 子どもの笑顔を最優先」です。子どもたちが主体となっ
て遊びや活動を展開することで、生涯にわたって生きる力の基礎をつくる資質・能力を育てています。
本園のアプローチカリキュラムは「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に基づき作成し、学
びの質を高めるよう環境構成して、遊びや生活の充実を図っています。いくつか実践事例の紹介があ
りました。上記左の写真は、敬老の日の手紙を出したことがきっかけで、郵便屋さんごっこが始まり、
自主的にポストやはがきを作って、遊びを展開した内容です。活動を通して役割やルール、文字や数字
なども覚え、「10の姿」の協同性や社会生活との関わりが育まれました。小学校との連携では、大島
小学校と交流を図っています。体験後子どもたちの感想を聞くと、期待とともに不安もあるので、先生
方は安心して入学できるように子どもの気持ちに寄り添って関わっていきたくと話していました。

【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



☆ 並木幼稚園の発表について

- ・遊びの中で考えたことや話し合ったことをもとに活動や行事を進めており、子どもの主体性
を大切にしていることが素晴らしいので、各園でも行事等を見直していきたいと思います。
- ・小学校との連携については、ねらいや目的を明確にして計画しており、まず職員が小学校と話
し合い、次に授業体験、体験後に振り返りを行う等、丁寧な交流をしていると感じました。

☆ 「幼保小の架け橋プログラム」に期待することについて

- ・「気になる子の支援」「保護者対応」「小1 プログラムの実態と具体的対応」「アプローチカリ
キュラムとスタートカリキュラムの活用状況」の視点で話し合いました。視点をもとに話し合
うことで現在の課題が明確になり、それぞれの立場での想いを共有することができました。

《参加者からのアンケートから》

- ・幼保小の先生方が架け橋プログラム策定に向けて、課題を浮き彫りにできて大変有意義な研修会
でした。質の高いグループ討議ができました。（幼稚園：参加者）
- ・子どもたちの土台には幼保の育ちがあることを再認識しました。幼保では子ども主体で遊びを通
して学んでいくが、小学校は主体ではあるものの教科等の枠組みで学んでいくことを考えると、
今回のような話し合いの場は大切で、スムーズな接続が実現すると思う。（小学校：参加者）

「協議会だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。